



ジョイフル コミュニケーション!
Salesian Bulletin Japan

ドン・ボスコの風

No.
24
October
2020

特 集

誠実な社会人、 なら キリストに倣う者

*Good Christians
and
Upright Citizens*



【困難を抱える青少年と共に】ドン・ボスコ オラトリオ in 調布

【ドン・ボスコの教え子たち】彫刻家 柿坪 満実子 さん

【ドン・ボスコのトモダチが暮らす街】シムリアップ／カンボジア王国

【サレジオ家族探訪】サレジアン・シスターズ山中雪の聖母修道院

【サレジアンピープル】KISMATプロジェクト



「みこころが天に行われるとおり、
地にも行われますように」

（マタイによる福音書 6章10節）

新型コロナウイルスが猛威をふるう中、世界中で多くの方々が命を落とし、あるいは命の危機に直面しています。感染拡大防止の行動制限により、若者たちは学校に通えず、仕事で大きな損害を被った方もおられるでしょう。日々の生活に困窮している方も少なくありません。

連日のように配信されるサレジオの世界のニュースを見ますと、各地のサレジオ家族がこのコロナ禍において、より貧しい人、困難のうちにある若者のために、すぐに行動している様子がわかります。若者自身が率先して、若者と共に、誠実に働いています。「誠実な社会人、キリストに倣う者」という今年のサレジオ家族年間目標（ストレンナ）をまさに実践しているのです。

調布のドン・ボスコ オラトリオでは、困窮する外国籍の若者のために、救援物資を募って届けたり、都市封鎖のため帰国できない若者に一時滞在場所を提供したりと、若者たちが率先して助け合っている活動をサポートしています。

私たちサレジオ家族は、「生きる喜びをもてるように、どうやって助け合えるか」を共に考え、行動します。小さき者を優先的に大切にすることの模範として、私たちが若者と共に地上で誠実に生き、天においても永遠に幸せに生きることができるよう。すべての若者の人生が、喜びに満ちたものとなりますように！

サレジオ会日本管区長

使徒ヤコブ 濱口 秀昭 神父

2020年10月2日 守護の天使の記念日に



2020年3月、イタリア・トリノで開催されたサレジオ会第28回総会で、左から春山ミカエルラップ副管区長、アンヘル・フェルナンデス・アルティメ総長、濱口秀昭管区長、岡本大二郎神父

はまぐち ひであき

1958年長崎県佐世保市生まれ、62歳。長崎南山高等学校、上智大学を卒業、32歳で司祭叙階。東京サレジオ学園副園長、高松教区会計、調布サレジオ神学院長、サレジオ会日本管区副管区長などを務め、2018年6月より日本管区長。趣味は自然を味わうこと（海遊び、登山、魚・山菜料理を食べる、写真撮影など）。

ジョイフル コミュニケーション！

ドン・ボスコの風

Salesian Bulletin Japan No.24 October 2020

Contents もくじ

4 特集 誠実な社会人、キリストに倣う者 Good Christians and Upright Citizens

4 若者の声／5 コラム「オンライン聖書学校」開催！／7 フェルナンデス総長のすすめ、教皇フランシスコの若者への呼びかけ／8 同窓生の聖人アルベルト・マルヴェッリ／9 センパイからのエール

10 困難を抱える青少年と共に ドン・ボスコ オラトリオ in 調布

12 連載インタビュー ドン・ボスコの教え子たち 彫刻家 柿坪 満実子 さん

14 ドン・ボスコのトモダチが暮らす街 Don Bosco Amici
シエムリアップ／カンボジア王国

18 （サレジアン・ピープル）KISMATプロジェクト
“事故で半身不随となった出稼ぎ労働者を家族のもとへ搬送する3,500kmの旅”

20 つながれ！サレジオ青年 SYM JAPAN Salesian Youth Movement Japan
SYMがあって、よかった！ SYM JAPAN 祝5周年！ 活動を振り返って

22 サレジアン スクールライフ！ レポート

24 サレジオ家族探訪 Visit the Salesian Family
山中雪の聖母修道院 サレジアン・シスターズ

30 Salesian Family member interview 今、私「〇〇」しています！
社会福祉法人 児童養護施設 聖ヨゼフ寮 施設長 衛藤 祐治 さん
児童養護施設聖ヨゼフ寮で「エトウパバ」をしています！

31 Salesian Family member interview 新司祭紹介
レー・ファム・ギエ・フー 神父 「神のわざは不思議！」

16 世界のサレジオ家族ニュース / 26 サレジオ家族 国内ニュース / 29 サレジオ情報募集

サレジアン・ダイアリー vol.06

思いがけないこと

コロナ禍の影響で教会に集まることができず、教会学校も休校を余儀なくされる中で、調布教会の日曜学校ではできることをしようと、オンラインでの教理授業発信を行った。

私も日曜学校スタッフの末席にいる関係上、この取り組みに参加せざるを得ない立場となった。私は全くのSNS音痴なので、自然と内容を考える方に回るようになった。幸いにも劇の脚本や絵や小道具を作るのは若い人たちよりも場数を踏んでいる。若いスタッフたちは年上にダメ出しをすることに抵抗があるのか、私の作った原案が採用されることが多かった。気が付けば私の作った脚本、絵、小道具などがYouTubeにさらされている。SNS音痴のユーチューバーである。

コロナ禍は私たちの生活に大きな影響を与えたが私も大きく変えられた一人である。

今号の表紙



日本で困難を抱える外国籍の若者のために東京・調布でスタートした「ドン・ボスコ オラトリオ in 調布」。見知らぬ土地に来て頼るあてもない若者たちの居場所となり、若者たちが自身が率先して交流し、共に祈り、助け合う、ドン・ボスコの活動の原点だ。オラトリオは、さまざまな協力者の善意によって支えられている。

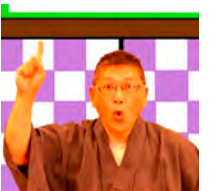


ドン・ボスコとは？

「青少年の友」と呼ばれ、助けを必要とする若者たちのために生涯をさげた神父。1815年イタリア生まれ、名前はヨハネ（イタリア語でジョヴァンニ）。ドン・ボスコは「ボスコ神父」の意味）。青少年教育に献身するサレジオ会を創立。1888年帰天。1934年列聖。

サレジオ家族とは？

ドン・ボスコの精神を受け継ぐ修道者・信徒・協力者たち。世界130以上の国で、31団体、40万人以上のメンバーが、学校、教会、社会生活のさまざまな場面で青少年や貧しい人びとのために奉仕している。サレジアンファミリーとも呼ばれる。



木鎌 雄一郎 修道士

きかま ゆういちろう

1967年生まれ。53歳。サレジオ神学院で養成と園芸に従事。趣味はサイクリング。

誠実な社会人、 キリストに倣う者

みこころが天に行われるとおり、
地にも行われますように

ドン・ボスコは天の父のみこころを、
「誠実な社会人、キリストに倣う者」を育てる教育を通して実現しようとしていました。
今年のストレンナ(サレジオ家族の年間目標)「誠実な社会人、キリストに倣う者」は、
すべての人がかけがえのない存在として大切にされる社会を作り上げようという、
未来を築く若い皆さんへの呼びかけです。

● 構成/編集部 イラスト/鈴木ぐり ©Guri Suzuki 協力/若者の皆さん、調布サレジオ神学院

Good Christians and Upright Citizens

若者の声 Voices of the Young

社会の中で「誠実な社会人、キリストに倣う者」として生きる上で、
困難がどこにあるのか、それをどう乗り越えようとしているのか、
編集部が行ったアンケートに約80人の青年たちが真剣な回答を寄せてくれました。その一部をここで紹介します。



Q1

誠実に、またキリストに倣って生きようとするけれども、実際の社会の中にあって、
難しさを感じることはありますか? それはどんなときですか?

Q2

また、それをどうやって乗り越えていますか?

難しさを感じない

A1: 誠実に生きる難しさを感じることはない。
会社で言うなら、誠実さこそが売上げを伸ばす方法。

A2: 特に難しさを感じることはないが、それは自分が不誠実で適当な人間で、
真の意味でキリストに倣って生きようとしていないからなのかもしれない。
誠実な社会人、キリストに倣おうとしている人はきっと難しさを感じてるんだろうと思う。

人間関係

A1: 苦手で合わないなと感じる人に出会ったとき。
つい相手の言動に腹を立てたり、心の中で批判してしまうとき。

A2: 自分のことも批判してみる。他人から見た自分を想像してみる。
「もっと成長しなさい」というメッセージとして、この苦しさを粛々と受け止める。

周りに合わせる

A1: 自分が誠実でないこと(例えば嘘をついて)で周りと調和が保たれるとき。
小さな意見の違いなどで、まわりとの一時的な衝突を回避したくなってしまう。
向き合わずに、隠蔽したほうがめんどくさくないや、と思ってしまう時がある。

A2: 人との対立を恐れないこと、ちゃんと相手を信じて向き合うこと。
自分が嘘をついているか、誤魔化そうとしているかに敏感になること。
また、それを敏感に反応できる環境に自分を置いたり、そういう環境を自分で作ること。

忙しさ・ゆとりのなさ

A1: 時間に追われてしまって優しい思いやりの心が減っていく時はダメだと思う。
この間、目の不自由な方が道に迷っている風だったけど、次のアポイントに急いでいて声をかけてあげられなかった。

A2: 自分の時間を少しでも作って和む。または心許せる人とゆっくり時間を過ごす。
そもそも詰めて予定を入れないようにする。

競争社会の中で

A1: 競争社会の中で生きていくと、どうしても他人よりも優れていようと必死になってしまう...

A2: 承認欲求を「努力のためのモチベーション」と割り切り、身につけた能力を他人のために使う。

A1: 誰かを排除しようとしたり、自分を人よりも押し出そうとしたりする人や考えに出会ったとき。
就職活動で、企業の利益追求思考に合わせて自分を売り出すことを求められ、
自身をごく一部分で計られ、望まぬ競争を強いられるのを息苦しく感じている。

A2: キリスト者である限りこの難しさとはずっと向き合っていかなければならず、
絶望感を味わうが、その度に私たちは困難の中でもイエスの愛を見つけることができるし、
私たちの苦しみは、イエスが背負ってくださるから絶望する必要はないと気づかされる。

Colmn

「オンライン聖書学校」ストレンナ2020をテーマに開催!

毎年夏に開催される「野尻湖少年聖書学校」は新型コロナウイルス感染拡大のため中止となりましたが、
調布サレジオ神学院の神学生・志願生が中心となって短い動画を作成し「オンライン聖書学校」として、
8月12日から15日まで4回に分けてYouTubeで配信しました。

聖書学校のテーマは「誠実な社会人、キリストに倣う者」で、紙芝居やスライドなど用いてわかりやすく紹介し、
より良い社会を築くためにどのように政治に参加していくことができるかを考えました。
調布サレジオ神学院院長の田村宣行神父によるラップ「忘れんなストレンナ2020聖書学校編」では、
社会の中でキリストに倣って生きることの難しさに負けずに生き抜くようにと、
若者たちにエールを送っています。下記のリンク先からは是非ご覧ください!

サレジオ会日本管区 YouTube チャンネル
<https://www.youtube.com/user/SalesiansJapan>



社会の価値観とのギャップ



A1: 日本社会の価値や雰囲気と、福音的な（イエスの教えの）価値の差を感じる。
 ・駅で酔い潰れている見知らぬ人を介抱しようとしたときに、友人が、痛い目を見たほうが本人のためになると言っていた。
 ・教皇フランシスコが難民受け入れについて発言をしたときにTwitter上で強い反発が見られた。その時に自分がカトリックの世界にどっぷり浸かっていたことを改めて自覚した。

利益追求を優先する社会の中で



A1: 会社の方針に悩む。「社員を養うためには利益が必要だ」というのは理解できるが、利益追求が過ぎるのではないかと感じる人が多い。

A2: できる限りきちんと反対であることを伝えるが、会社の方針は簡単には変わらないので、個人の中で、取引先とその先にいる人びとにとってより害が少なくより最適な提案ができるようきちんと学び配慮ができるように心がけている。



A1: 「結局は正直者がバカをみるのだ」と感じることが多い。自分の利益が一番という世の中なのか？ でも、誠実にキリストに倣って生きてるつもりでも、自分も人を傷つけている一人なのかもしれない。

A2: ひたすらイエス様ならどうするか、どう思うかを考える。年齢を重ねて偉そうになっているところもあるかもと省み、「偉くなりたい者は、仕える者になりなさい」というイエスの言葉を思い起こしている。

自分の限界にぶつかる



A1: 社会で生きていて難しさを感じるときは、イエスに倣うことより自分の自己中心的な心に聞いて生きてしまうこと。こっちの方が楽とか、有名になれるとか、お金をかせげるとか…ほんとうならどっちの道が人のためか、と考えるべきところを自分中心に考えてしまうこと。

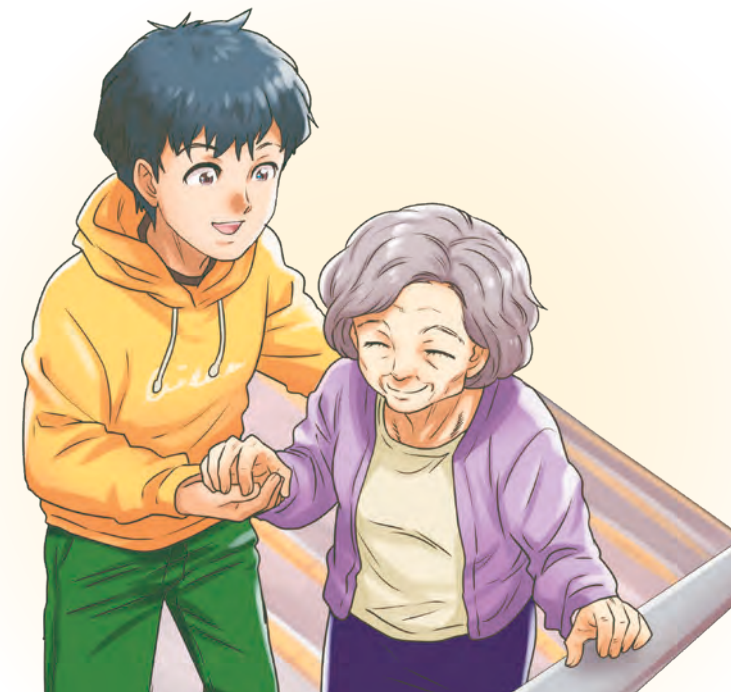
A2: 祈る。識別する。どっちがイエスの道か、イエスの望みかを祈りの中で聴く。



A1: キリストに倣う者として、日々仕事で接する相手に優しさの心を持って接したいと思うが、自分の弱さ故に、忙しさの中だとイライラしてしまうことが多い。常に神様を忘れずにいたいけれど、周囲にいる人は信者ではないし、自分を信者だと知らない人だから、周囲の人に染まっていつてしまう。両方とも自分の弱さ故。

A2: 乗り越えられてはいないが、なるべく教会の仲間と連絡をとったり、教会に行く。巡礼や海外ボランティアに参加した際の、神様の力、大きさをより強く感じた時の写真とかを見返す。

アンケートにご協力くださった皆さん、ありがとうございました。
 多くの回答は誌面の都合で掲載できませんでした。申し訳ありません。



Message from Rector Major

フェルナンデス総長の すすめ

無関心に打ち勝って、 自分を他の人たちのための 贈りものにしよう!



神との出会いによって、私は自分の殻から引き出され、他者へと向かうようになります。これを「贈りものの人間論」と呼ぶ人もいます。「他者のためのあなたのいのち」という言葉に要約しても良いでしょう。したがって、他者に心を開いている人は、無関心ではなく、相手に関心を向け、共感に満ちたまなざしを持つ人です。無関心は、昨今、多くの人の心の奥に巣食ひ、そのため私たちは、他者の叫びを前にしながら共感を覚えることができなくなっているのです。

社会活動・善のために 「闘う姿勢」は イエスのメッセージと矛盾しない

社会的な取り組み、若者や社会の善益を促進するさまざまな組織の「闘う姿勢」が福音の教えと矛盾する、というような考えを、私は受け入れる必要はないと思います。私たちは主の祈りの中に、兄弟愛と正義、連帯、和解、他者の尊重、平等、最も弱い人びとを擁護する「政治」を見いだすことができます。

変革の担い手を生み出す教育

私たちの教育事業が卒業生を生み出しても、変革に取り組む市民を生み出さないなら、私たちは満足することができません。ただ「教育」を受けたというだけでは十分ではないのです。さまざまな現実に対して批判の目を持ち、変革と向上、希望と刷新の担い手として、経済、政治、教育、職業、社会的取り組み、マスメディアなどの世界で、そこにある現実を「変容」させる力をつけた市民を、共通善のために働く積極的に関わる市民から成る新しい世界のために生み出すことを私たちは目指しているのです。

（サレジオ会総長書簡 最高評議会報431号「サレジオ家族年間目標 ストレナ2020 みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように 誠実な社会人、キリストに倣う者」2020年より）

若者の声からは、社会の中で誠実にキリストに倣って生きることの難しさが浮かび上がってきます。「誠実な社会人」という言葉には、社会の中で特に弱い立場に置かれた人びとの声に耳を傾け、時には流れに逆らうことがあっても声を上げ、より良い社会を作っていくため行動する市民になろう、という意味が込められています。教皇フランシスコとフェルナンデス総長は、私たちが困難に負けず、無関心を克服し、より良い社会に変革する主人公となるように、エールを送っています。

Message from Pope Francis

教皇フランシスコの 若者への呼びかけ

希望の星はあなたたちです! あなたたちを通して、 世界に未来が訪れるのです!

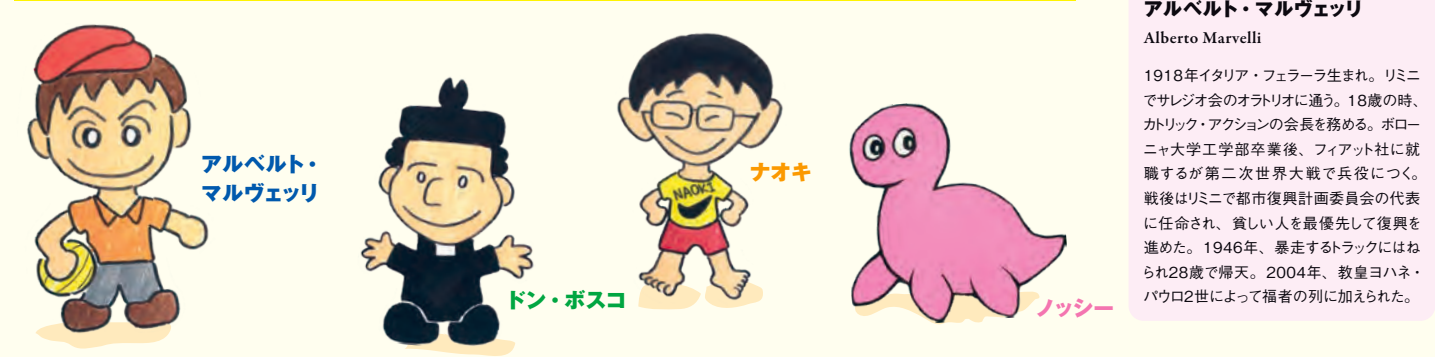
社会参加を奨励したいと思っています。わたしは知っているのです。あなたの心、若い心は、よりよい世界を築きたがっています。世界中のニュースを見ると、世界の多くの場所で、多くの若者が、もっと正義と友愛のある文明への望みを表明して、通りに出ています。街頭に出る若者たちです。変革の主役になろうという若者たちです。変革の主人公を、ほかの誰かにやらせてはなりません。希望の星はあなたたちです。あなたたちを通して、世界に未来が訪れるのです。あなたたちには、この変革の主役にもなってもらいたいのです。

世界のさまざまな場所で生じている社会的・政治的不安に対して、無関心を克服して、キリスト教的な答えを示してください。あなたたちをお願いします。未来を築く建設者になり、世界をより良いものとする働きに加わってください。愛する若者の皆さん、お願いします。観客席から人生を眺めるのではなく、そこでもまれてください。イエスは観客席にはおられず、積極的にかかわられました。ですから観客席からの人生ではなく、イエスがなさったように、そこでもみくちやにされてください。とにもかくにも、消費主義や薄っぺらな個人主義の病に冒されずに、共通善のために闘い、貧しい人に仕える者となり、愛と奉仕の革命の主人公となってください。

（教皇フランシスコ著『使徒的勧告 キリストは生きている』174 カトリック中央協議会 2019年より）



「貧しい人を最優先しよう」



ノッチー (🦖) こんにちは、野尻湖のヌシのノッチーです。

ナオキ (👓) こんにちは、聖書学校スタッフのナオキです。今回は、2人の聖人をお呼びしています。

ドン・ボスコ (👔) こんにちは、ドン・ボスコです。

アルベルト (👑) アルベルト・マルヴェッリです。よろしくお願いします。

➡ アルベルトさんは、ドン・ボスコとは接点があったんですか？

👑 直接会ったことはありません。ぼくが十代の頃に通っていたリミニ〔注：イタリア東沿岸部の都市〕のオラトリオ（教会学校）のスタッフにはドン・ボスコを直接知っている人がいて、ドン・ボスコの話はよく聞かせてもらいました。

👑 それはうれしいなあ。オラトリオは楽しかったかい？

👑 楽しかったですよ。ぼくはスポーツが得意だったので、みんなといろんなスポーツをするのが楽しかったです。年齢が上の方になった頃は、年下の子たちに祈りや勉強を教えることもありました。学生会長も務めましたよ。

👑 アルベルト君のおかげでオラトリオは盛り上がったんだろうなあ。

➡ ご家族はどんな人たちでしたか？

👑 ぼくの母は、いつでも貧しい人たちのことを考えていました。貧しい人が近くにいると、よく家の食事を分けてあげていたことを覚えています。貧しい人たちの

中にイエス様がおられるってよく言っていました。

👑 それは素晴らしいね。

➡ オラトリオを卒業してからはどうしていたのですか？

👑 ボローニャ大学の工学部で勉強して、トリノで就職しました。第二次世界大戦で軍隊に入っていた時期もあります。

➡ 戦争が終わってからはどうしましたか？

👑 リミニで都市復興の仕事にたずさわることになりました。

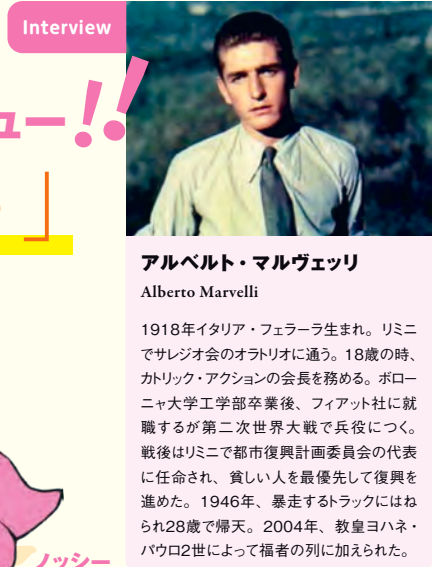
👑 リミニにはアルベルト君を知っている人がたくさんいたし、みんな喜んだらうね。

👑 再会できた友だちもいたけど、亡くなった人もいたし、家族が亡くなったり、大怪我をしたり、家や家財を失った人がたくさんいました。

👑 復興の仕事の場では、アルベルト君のお母さんが大事にしていた貧しい人とのつながりをもつ機会がたくさんあっただらうね。

👑 はい。仕事として都市復興のことに関わったのは幸いでした。困っている人に会える範囲の広さがまるで違います。政治的な立場や思想的に折り合うのが難しい人も、国家プロジェクトの仕事には協力してくれました。責任者の立場だったので、貧しい人を優先する方針を立てることができました。それでもなかなか手が回らなくて、限界を感じることもたくさんありました。

👑 そんな時にこそ、神様の導きとマリア様の助けが必要なんだね。アルベルト君



は戦災にあった人たちのために良い仕事をしたよ。

👑 母のおかげです。ぼくが復興の仕事をしている時にも、母は貧しい人たちのためにと言って、家の家具などを渡してくれました。

👑 アルベルト君のことだから、困っている人の安全や物資のお世話だけでなく、出会った人の気持ちにも寄り添っていたんだろうね。

👑 ドン・ボスコは『愛するだけでは足りない。愛されていることが伝わるように』って言っていましたよね。生命や身体の危険から守って、物資や安全な場所をお世話するだけで足りないんです。戦災にあった人たちの心に寄り添って安心してもらうことが大切なんです。

👑 アルベルト君はオラトリオの立派な実りだよ。自分の職業としての仕事を、神さまのみこころにかなう使命に昇華させた。私が出会った若者にいつも求めていた『誠実な社会人、キリストに倣う者』という理想を、君の生きた時代、状況の中で立派に表現してくれたんだ。これからの時代の若者にも私の思いが届いてほしいものだ。ナオキくん、今の時代の若者たちをよろしく頼むよ。

➡ お二人のお話を聖書学校のみんなにぜひ伝えたいです。

👑 ぼくもお二人話を聞いて熱くなりました。ぼくも野尻湖のヌシとしてがんばります。

構成・協力／調布サレジオ神学院 イラスト／木鎌雄一郎



誠実な社会人、キリストに倣う者としての政治への使命

ドン・ボスコのいう「誠実な社会人、キリストに倣う者」として、私たちは政治とどうつながればよいのでしょうか。

新約聖書の福音書を読むと、イエス・キリストは信仰の対象（＝神）であると同時に、一人の人間として、2000年前のイスラエルの社会の現実をよく見ていたことが分かります。イエスは、貧しく社会の周辺に追いやられていた多様な人びとに寄り添い、深く共感する一方、権力者、上流階級の人びとも関わり、社会がよりよい方向に向かうよう働きかけた、立派な社会人だったのです。



それから1800年後、19世紀のイタリアでイエスの価値観を大切にカトリック司祭として生き、サレジオ会を創ったのがドン・ボスコでした。革命の時代で、複雑な政治状況にあったため、彼は現実政治に深く関与することには慎重だったといわれます。しかし、ドン・ボスコはイエ

スに倣い、激動する社会経済の影響を受け苦しむ貧しい青少年に目を留め、寄り添い、彼らを教育することを通して社会に希望をもたらしました。

イエスの心からの願いは、すべての人の救い（幸せ）を実現することでした。そのために特に貧しく、弱い立場にある人びとの目線に立って、現実の社会で具体的に行動すること。これは、昨年来日した教皇フランシスコもしばしば強調してきたことですね。そう、「誠実な社会人」であることと「キリストに倣う者」であることは、実は別々ではなく一体のものなのです。

ドン・ボスコはまた、「主の祈りの政治」という表現も用いました。この世の政治は対立がつきもので、不完全な人間同士が織りなす相対的で不安定なものです。政治不信も根強く存在します。そんな中でも、ドン・ボスコは「**心が地にも行われるように**」、すべてのいのち、人間の尊厳を守ることをあきらめずに追求しようと呼びかけ、若者たちと共に実践したのでした。その呼びかけは、現代の若い皆さんにも及んでいます。

政治や社会に参画するとして、どのような政党を支持し投票するか、またどのような活動をするか、もちろんそれは自由であり強制されるべきではありません。しかし、社会はますます複雑化・多様化しており、国内外で課題があふれています。いかなる態度をとるにせよ、**弱い立場にある人びとのことを忘れず、謙虚さと幅広い視野をもって、大切な政治的権利を行使し、よりよい社会になるよう働きかけることが求められているのです。**

私も政治学者として、これまでも政治とつながることの大切さを訴えてきました。特にゼミでは、多様な意見に触れて答えのない問題について議論し、よく考える環境づくりに努めてきたつもりです。今年のストレンナを味わいながら、社会人、キリスト者としての自らの政治や社会へのスタンスを改めて見つめ直すことができました。

誠実な社会人、キリストに倣う者として、すべての人の幸せを願いながら責任ある政治参加をしていきましょう。サレジオにかかわる私たち一人ひとりが、その使命を帯びています。■



大川千寿さんの著書をプレゼント！
→本誌p29をご覧ください。

困難を抱える青少年と共に

ドン・ボスコ オラトリオ in 調布

Don Bosco
Oratorio
in Chofu

2020年7月26日(日)、サレジオ会日本管区の新しい活動として、調布支部でドン・ボスコ オラトリオが始まった。対象となるのは、特に外国籍の若者だが、実際にはその多くはベトナムから日本にやってきた技能実習生、日本語留学生たちである。開始となる初日は約60人の参加者が集まった。オラトリオ開始の背景にある、ベトナムからの技能実習生の現状について、オラトリオ開設に携わったサレジオ会日本管区副管区長の春山ミカエルラップ神父に聞いた。



なぜ今ベトナム人の若者が日本に？

日本とアジア諸国の経済状況が背景にあります。日本は労働力が不足しています。アジア諸国は若い世代の人口が多いけれど実際には自国には仕事がありません。日本にとっては、こうしたアジアの若者を労働力として確保したいし、アジア諸国にとって、自国の若者が日本で働けば、多少外貨が入ってくる。そういった国家間の思惑があう部分に日本の技能実習制度があるわけで、多くのアジアの若者が日本に来了います。最近ではアジア諸国の中から日本に来了いる技能実習生のうち40万人はベトナム人で、カトリック信者は推定で2万人います。私たちが関わっているベトナム人は、このオラトリオ以外を含めて6千人ほどでしょうか。

どんな実習をしている？

私たちの関わっているベトナム人青年の男性の多くは肉体労働に従事しています。道の保全や工事。建設現場。介護の分野は増えています。

ベトナム人女性はスーパーとか、弁当屋、農業、冷凍食品などの仕事が多いです。最近、東京都稲城市には約50人のベトナム人女性が来了ました。空港での清掃作業のために、



ドン・ボスコ オラトリオのスタッフの皆さん

オラトリオの活動内容

早番、昼番、遅番と交代で勤務するそうです。そのうち2人がカトリック信徒でこのオラトリオに来了います。

彼らは技能実習生として3年か5年の期間で働く資格は持っていますが、就労ビザはありません。実際には日本人よりも働かされていますが、それでも給料は少ないです。労働者ではなく、技能実習生だからです。労働者の持てる権利はありません。労働者の場合、日本に残る権利がありますが、実習生は実習が終わると、技能を身に着けたということで帰国しなければなりません。でも、日本で学んだ技術はベトナムではほとんど使えません。若者たちもそれはわかっています。技能実習制度は、日本が労働力確保のために都合よく利用しているのが実状です。

日本の社会の中での難しさもあると聞きます。

トラブルは結構あります。日本に来了たけれど、労働条件が悪くて辞めたとか、暴力団にはめられて逃げたとか、そういうケースなどもあります。逃げたそのときから、いわゆる不法滞在になってしまいます。会社がその実習生を雇ったのだから、そこを離れるとビザが有効でなくなるのです。逃げて、どこかに隠れて住み、不法就職するか、犯罪グループに勧誘されるケースが増えています。今回のコロナ禍で仕事がな

かなかない。このオラトリオではコロナ禍で仕事がなくなったが、帰国できなくなった若者たちを受け入れています。現在、20代のベトナム人4人がオラトリオに身を寄せています。

ベトナムの社会はまだムラ社会です。ベトナムでは家族、親族、地域、教会の目がありますが、日本に来了たらそこからフリーになります。向こうではよい青年だったけれど、日本に来了て、誘惑に負けてしまうのです。万引き、かけ事、それから、若い男女が来ているから、どうしても同棲や性の問題などがあります。

日本にいるベトナム人技能実習生、研修生、日本語留学生の現状は、ドン・ボスコの時代の若者に似ていると思います。ムラから街に出てきて、頼るところがなく、彼らを世話する人がまだ不十分の状況。教会には彼らの場所がまだ少ない。そこで、オラトリオは若者の居場所を開いて、何らかの形で彼らを支援していきたいと思っています。

昨年11月には、サレジオ会のフクハイ修道士がベトナムから日本に派遣され、他の教会でベトナム人青年司牧がすで行われてきました。これからは、調布オラトリオを拠点として、ベトナム人青年だけでなく、外国籍の若者、日本の若者が関わってくれるように期待しています。幸いにオラトリオの協働者が増えています。若者ならどんなかたでも受け入れる姿勢でいます。●

オラトリオ (Oratorio) : イタリア語で「祈りの場」を意味するが、ドン・ボスコが始めたトリノにあるヴァルドッコのオラトリオは、家(寮)・聖堂・学校・遊び場(運動場)が一体となった「若者のためのあらゆる活動の場」であった。現在では世界中のサレジオのオラトリオが「若者の居場所」として活動している。

INTERVIEW



技能実習生として
来日している

ヴィニャット・ミン さん
(20歳)

19歳で日本に来了ました。ホーチミン市の近くの出身です。家族のためにお金を稼ぐためです。来るきっかけは、斡旋する会社のスタッフが学校にやってきて、日本に行かないかと誘われました。3年間の契約です。来るためには50万円弱かかったので、親戚や村の友達から借りたりしました。日本で働いて返すことにしています。

道の補修の仕事をしています。給料は、最初は斡旋業者に管理してもらい、自分のためには月に3万円もらい、あとは実家に送金してもらいましたが、今は日本語ができるようになったので、口座を作って自分で送金しています。

契約はあと1年です。本当は学校で習った溶接などの技術を使って工場で働きたかったのですが、そういう仕事がありませんでした。帰国してからは、ここでしたことは何の役にもたたないと思います。将来が心配です。日々の心配は、天気が悪く雨が多いことです。外での仕事だから、雨が降ると仕事がなくなるんです。

ドン・ボスコ オラトリオ in 調布の活動

月曜と水曜日は20時から日本語教室。
第4日曜日の午後。神学院敷地内ユースセンターでオラトリオ。
13時 相談会、ゆるしの秘跡、カテキズム、典礼の準備
14時 ミサあるいはみ言葉の祭儀
15時 おやつ、レクリエーション 交流、スポーツ、ダンス
17時 片付け
17時半 解散

代表 サレジオ会 司祭

春山 ミカエルラップ 神父

はるやま みかえるらつぷ



<支援のお願い>

皆さまのあたたかい支援を心よりお願い申し上げます。
下記口座までお振込みください。

【口座名】ドン・ボスコ オラトリオ

●郵便振替をご利用の場合

【記号】11370 【番号】14004031

●他の金融機関からお振込みの場合

【金融機関】ゆうちょ銀行

【店名】一三八(イチサンハチ) 【店番】138

【預金】普通預金 【口座番号】1400403

連載インタビュー ドン・ボスコの 教え子たち

今、様々な分野で活躍している
サレジオン同窓生を紹介します。

●取材・文／編集部

彫刻家

We are Don Bosco's Students

柿坪 満実子さん

星美学園幼稚園・小学校・中学校・高等学校OG

かきつぼ まみに

1993年東京都生まれ。星美学園幼稚園・小学校・中学高等学校卒業。現在、東京藝術大学美術学部彫刻科に在籍中。
主な展示：2019年学内研究展「にんげん」（東京藝術大学）
2020年グループ展「萬猫展」（フリュウギャラリー）グループ展「WALLAby/ワラビー」（GINZA SIX 萬屋書店内 GINZA ATRIUM）他、2019年には教皇フランシスコ来日に合わせて製作されたオフィシャルメダルの原型を担当するなど、メダル制作にも携わっている。2019年東京藝術大学久米桂一郎賞奨学金を受賞。

東京藝術大学4年生の柿坪満実子さん。満実子さんの実家は、表彰メダル・記念品を製作する会社「正英」。

2019年は教皇フランシスコ来日にあたり、公式記念メダル（メダル）を製造した。なにより満実子さんは、メダルの原型となる教皇フランシスコのレリーフを作家として担当した。

星美学園に入ったきっかけは？

姉が2人いて、どちらも先に星美学園（東京都北区）の小中高に通っていて、私は幼稚園から高校卒業まで15年間通いました。

星美学園での思い出は？

星美ではミサや宗教行事がたくさんありました。日々の中にシスターが身近にいらっしや、当たり前のような存在でした。ふりかえると、特別な空間にいたのだと感ずます。幼稚園から通っていたので、躊躇なく自然にお祈りができていました。中高の6年間はお祈り係をしました。

今、美術をやっていることに繋がっていると思うことは、中高時代、アニメーション部（現在は映像制作部）に所属していたことです。アニメーション部といっても、立体を動かして、ストップモーションアニメ、いわゆるクレイアニメを制作する部活でした。私は、特に勉強に積極的な生徒でなく、あまり友達と楽しく騒ぐタイプでもありませんでした。どちらかというと、勝手に一人で楽しむタイプで、勝手に孤独を感じて、勝手に孤独になっていま

した。でも先生方は、いつも気にかけてくれていました。高3のときも、担任の先生とよく面談をしていました。といっても、かしこまったものではなくて、「最近、どうなの？」という感じで、話をさせてくれました。生徒に対しては、ちゃんと見てくれていたのかなと思います。

美術を志したのは？

母が女子美術大学の出身ということもあり、小さいときから美術館などに連れて行ってもらったからか、絵を描いたり、何かを作るというのはもともと好きでした。中学生のときに、自分自身のことを真剣に考える時期があって、これから自分がどういうふうに生きていこうか、何が好きかを考えたときに、自分の力で何かを作ることが楽しいという体験があったので、美術をやりたいと思いました。美術の中でも、立体を選んだのは、叔父でメダル作家の柿坪梧の作品を幼少から見ていた影響があったのかなと思います。

最初は作ることはただ楽しかったです。でも最近は、それよりも自分が作ったものを見て、自分が何を考えていたのかを見つめたいという気持ちのほうが強いです。自分のこと、社会のことを作りながら考え、作ってからも考える。作品は自分から出てきたものなので、そこには自分自身の何かが投影されています。それを考えることで、きちんと自分自身と向きあうことに重きを置いています。でも始まりは、やはり「楽しい」があると思います。頭のなかの映像でしかなかったものが、実際に存在として現れることは喜びです。



ご両親の経営するメダル製作の会社「正英」のアトリエにて。ご両親と



教皇来日公式メダル原型製作中の満実子さん



2017年のユスト高山右近 列福に際して配布されたメダルの原型。満実子さん作

今はできないけれど、

いつかできるようになるかもしれないから

教皇来日公式メダルの制作に関わって感じたことは？

これまでのメダルを作るときの原型作家は、父の弟にあたる叔父の柿坪梧でした。残念ながら2013年に病気で亡くなり、特注のレリーフ制作は一時途切れていました。そんな中、私が五浪を経て東京藝術大学に入学、美術予備校と大学で学んで力をつけてきたことを両親が認めてくれて「やってみないか」と。

私自身は信者ではありませんが、シスターや洗礼を受けている両親にとって特別な方のメダルになるのだからこそ、大事にしなければという思いで取り組みました。私が制作に関わったメダルは、触られる物、身に付けられる物です。今回の教皇様の来日でたくさんの方がこのメダルを喜んでくださいました。立体の造形に取り組む者として、この小さな「物」がいいという人間の心理を再認識しました。人間は物があるからこそ、自分という存在も認識できるんですよね。空間に自分しかいなかったら、自分を認識できないと思います。メダルは小さいけれど、そういう存在だと思います。

今も作品を作っていて感じることは、作品と私の関係はもちろんあるのですが、完成すれば作品は独り歩きします。だから作品と私とは繋げ過ぎたくありません。私は私でこれから先に行くし、その物は、誰かと関係性を作っていけばいいと思います。メダルが誰かと繋がっていき、その人の人生や信仰のためになればとても嬉しいです。

若い人たちへのメッセージを

私は大学受験で五浪しています。家族が協力的だったことは私にとって幸いでしたが、不合格になるとそれまで過ごしてきた時間を自分で否定していました。彫刻は自分が楽しいと思って始めたことでしたが、途中で辛いことや悲しいこともたくさんあり、不安でいっぱいでした。それでも私は彫刻を続けたいと思ったのであきらめませんでした。

今の社会は完璧さを求め過ぎているような気がします。できることがあたりまえだと強要されているように思います。でもそんなに簡単にはできないと思います。できなかったからダメだと思うのではなく、今はできないけれど、いつかできるようになるかもしれないからと思うこと。弱い自分もちゃんと認めて、そのうえで、自分に何ができるのか、何が好きだろうかということを探し続けることが大切だと思います。



2019年11月、フランシスコ教皇来日の際に配布されたメダルの原型（上）。満実子さん作。直径30cm 程の型から石膏型（右上）や多くの工程を経て、2cmのメダルが作られる

実際に配布された教皇来日記念メダルとメダル



星美学園
幼稚園・小学校・
中学校・高等学校
東京都北区赤羽台4-2-14
www.seibi.ac.jp



サレジオ家族が関わりをもつ
世界そして日本の風景を紹介します。



ボスコ・サンデー・スクールの子どもたちとVIDES JAPANのボランティアツアーに参加した日本の若者たち。ボスコ・ペーカリー・スクールで学んだ現地の若者たちは、日本人ボランティアが村の貧しい子どもたちの世話や教育にたずさわっている姿に触発されてサンデー・スクールを始めた。



ボスコ・ペーカリー・スクールの建物。アンコール遺跡の観光拠点として賑わうシェムリアップの街にある。5年前にボスコ・インターナショナル・カルチャー・センターが併設され、集会室のほか、ボランティアや観光客の宿泊所もある。

ボスコ・ペーカリー・スクール工場長のピロンさん。ボル・ポト政権崩壊後にVIDES JAPANが2人のカンボジア人を日本に受け入れて教育支援したうちの一人。星美学園短期大学を卒業後、母国に戻って家族と共にVIDES JAPANのプロジェクト運営に尽力。多くの善意の人びとの援助を受けながら、若者たちがパン職人の技術と自信を身につけて自立できるよう支援している。



Siem Reap Kingdom of Cambodia

シェムリアップ／カンボジア王国
公用語：クメール語



カンボジア王国は東南アジアのインドシナ半島南部にあり、メコン川とトンレサップ湖の恵みで繁栄したアンコール王朝の遺跡群で知られる。1953年に独立したが、カンボジア内戦やボル・ポト政権による大量虐殺で犠牲者と難民は数百万人にのぼった。サレジオ会は1991年から宣教師を派遣。サレジオン・シスターズ日本管区の国際ボランティア組織VIDES JAPANは、ボル・ポト政権崩壊後2人のカンボジア人女性を日本に受け入れて教育支援したことをきっかけに、貧しい若者たちの自立支援と養成のため「ボスコ・ペーカリー・スクール」のプロジェクトを始動。ここで学んだカンボジア人の若者たちが、村の最も貧しい子どもたちのために「ボスコ・サンデー・スクール」を始めることを望み、カンボジア人が運営、VIDES JAPANは資金援助を続けている。今も年に1度は日本人のVIDESボランティアが訪問し、現地と日本の若者たちの交流など活動が広がっている。



チリ

新しいオンライン番組
「信仰の鍵」

News Source: ANS

カトリックのミュージシャンのミニコンサートとトークで構成されるオンライン番組「Llave de Fe 信仰の鍵」シリーズが、2020年7月8日、チリのサレジオ会のFacebookページとYouTubeチャンネルで公開された。番組にはミュージシャンたちが自宅から演奏を届け、演奏の合間に対談が行われる。チリと世界各地のカトリック・アーティストの音楽や生き方を紹介し、信仰を振り返る場を生み出すのが番組のねらい。

サレジオ家族のグループ「Cancão Nova 新しい歌」のメンバーで、番組進行役のアレハンドロ・マンリケスは「音楽は心の扉を開き、神に近づけさせ



チリのオンライン番組「信仰の鍵」

てくれる鍵です。今、外出制限の中で、歌と生き方の証しによる希望と信仰のメッセージを伝えたいと願っています」と語る。

初回の放送で歌い、視聴者に語りかけたのは、フェル・トレド。キューバのハバナに生まれ、幼いころから視覚芸術と音楽に興味を持ち、思春期に回心を体験し芸術表現を信仰に合わせるようになったこと、サレジオ会共同体の若々しい雰囲気と日常生活を支えるキリスト教のメッセージに惹きつけられ、サレジオ・コオペラトリー会員となったことなどを分かち合った。

インド

ドン・ボスコ・ネットワーク
各地の人びとを支援

News Source: ANS

新型コロナウイルス感染症による外出禁止令が今年3月に出されて以来、インドの「ドン・ボスコ・ネットワーク」は最も困難な立場にある人びとへの支援を続けている。生活必需品、食糧セット、衛生用品、マスクなどの感染予防品が配布され、11のサレジオ計画開発事務局(PDO)と数多くの地元パートナーの協力により支援が実現した。2020年7月時点のレポートによると、主な活動は、①食料品セットの配布(18万セット)、②調理済食料の配布(60万人分)、③移動移住者への食事の提供、④ビスケット・焼き菓子・ベビー用品・チャパティ(主食)・ヨーグルト・水の配布、⑤衛生用品セットの配布、⑥マスクの配布(52万枚)、⑦相談事業(3500人)、⑧仕事の継続に必要な資金の支援、⑨政府の救援基金への寄付。支援



を受けた人の数は250万人以上にのぼり、その多くは特に貧しい人びと、移住者、スラム居住者、高齢者など社会的に困難な立場にある人だ。

ドン・ボスコ・ネットワークは活動にあたって、車で移動許可を事前に行政から取得し、警察や行政担当者に依頼してセキュリティを確保した上でボランティアが行動している。ボランティアは行政が定めた指針を遵守し、支援者やスポンサー団体への証明のため、被支援者について記録。インド全土の困窮する多くの人びとの支援にあたり、連帯の心で貢献したすべてのパートナー組織と支援者に感謝の意を表している。

韓国

困難な人を支援するため病院内に
「ボスコ・ジェラート」オープン

News Source: BoscoLink

2020年7月16日、ソウル市内のハナル病院(“天の病院”の意)1階にジェラート店「ボスコ・ジェラート」がオープンした。オーガニックの原材料を使用する本格的なジェラートを販売。ハナル病院のヨセフ・チョ院長は、店の収益が移民や疎外された若者のため、福音宣教のために使われるよう無償で場所を提供した。経営者はサレジオ会のキム・ピョンアン神父、店長はSYMサレジオ青年運動のメンバーであるキム・



病院内にオープンしたボスコ・ジェラート

イエスルさん。

店は、ミサと祝福をもって開店。ミサには20人の信徒やシスター、サレジオ・コオペラトリー会員、SYMの若者たちが参加し、開店を喜びあった。

ミャンマー

アニサカンの寄宿学校
「ナザレの家」からの便り

News Source: BoscoLink



ナザレの家の子どもたちとスタッフ、サレジオ会員たち

「ナザレの家」の仲間らは皆、元気になっています。新型コロナウイルスの影響で多くの人の生活に大変な困難がふりかかりましたが、私たちの共同体には祝福ももたらされました。

まず、ロックダウンのため、互いに分かち合う時間が増えました。以前は大勢の少年たちの世話でゆっくり話をして笑い合える時間はありませんでした。今、私たちのもとに23人の少年がいますが、あまり多くないので、一人ひとりの興味深い話に耳を傾けながら「個人の同伴」を行うことができます。多くは貧しい家庭の出身で、家族の問題を抱える子もいます。

もう一つの祝福は、保存食を配布することで、500世帯の貧しい家庭を支援できたことです。ACTSシンガポールの経済支援もいただきました。支援を受け取った人びとの笑顔と喜びを目の当たりにするのは、とても感動的な体験でした。

コロナ禍の日々、私たちサレジオ会員は祈りにより多くの時間をかけ、苦しむすべての神の子らのため、毎日祈っています。今年は子どもたちがいつもより長い休暇を取っているため建物修繕できず、サレジオ会員にとっては霊的な修繕を行う時でもあると言えるでしょう。[ナザレの家には通常170人の寮生がおり、7人のサレジオ会員と、ナザレの家の同窓生やボランティアが子どもたちの教育にたずさわっている。]

DBK[ドン・ボスコ基金]は
特に助けが必要な青少年の保護育成を支援する
サレジオの基金です。

サレジオ会の創立者ドン・ボスコの精神を受け継ぎ、貧困・家庭問題・災害等により、特に助けを必要とする青少年を保護育成する国内外のプロジェクトを支援しています。

DBKウェブサイト

http://salesians.jp/about/dbk

機関誌「DBKだより」バックナンバーも
ご覧いただけます。



DBK [ドン・ボスコ基金] では、ボリビア、モンゴル、南スーダン、東ティモール、日本国内など、世界各国のサレジオ関係グループによる青少年の保護育成プロジェクト等を支援しています。ご寄付くださる方は、下記の振込口座まで(または本誌とじ込みの払込用紙にて) お振り込みください。

口座名: ドン・ボスコ基金 口座番号: 00190-5-292253

※通信欄の寄付意向にチェックを入れて、寄付金額をご明記ください。寄付者氏名の非公表をご希望の方は、払込用紙に「匿名希望」(✓チェックマーク)をご記入ください。

【他の金融機関からお振込みの場合】

金融機関: ゆうちょ銀行 店名: 〇ー九 (ゼロイチキユウ)

預金種類: 当座預金 口座番号: 0292253

ボリビア

支援先と倉橋神父の近況



元気にサクソフォンを演奏する倉橋神父

サレジオ会ボリビア管区財務
レイナルド・ビリヤソン神父

ースクールのため、③サンタクルス市のドン・ボスコプロジェクトでさまざまな要因で危険にさらされている青少年を受け入れるため、④サレジオ会員ブルネー神父が担当するサンタクルス市の福祉事業のため

倉橋神父は現在、健康管理のため他の高齢会員たちと一緒にコチャバンパ市にある修道院に住んでいます。ここではサレジオ会のブラザーと看護師が交代で世話をし、医師の検診、掃除、洗濯、食事の世話、服薬管理など、必要なケアを提供しています。倉橋神父はいつも笑顔で元気に過ごしています。

神様の祝福が、支援者の皆様の上に豊かにありますようお祈りいたします。

ペルー共和国、ボリビア

コロナ禍で教育を受けられない子どもたち、
混乱する教育現場

勉学を続けていくために家族が一致協力

日本の皆様からドン・ボスコ基金を通して「新型コロナウイルスに苦しむ青少年活動のため」寄付金をいただき、皆様からの有難いプレゼントに感謝の祈りを捧げました。

新型コロナウイルスは、ペルーとボリビアでも拡大し続けています。両国とも政治・経済・治安が不安定で、患者を治療する医療設備・技術・専門職員・医薬品などにも限界があります。医療保障が不十分で、貧困のため十分な治療を受けられず多くの方が亡くなっています。ペルーとボリビアは、午後5時から午前5時までと土曜日曜は、原則として外出と車の使用が禁じられ、16歳以下と65歳以上の人は平日も終日外出禁止、違反者には厳罰が課せられます。

学校教育は大きな問題となっています。3月中旬からすべての教育機関が閉鎖され、オンライン授業が開始されましたが、設備は不十分、研修や準備もないため、軌道にのるまで時間がかかりました。地方ではインターネット設備・機器が不足しています。ペルーでは、3月末にオンライン授業が合法化され、修道会経営のアントニオ・カヴォリ学園でも規定に即して対応しています。

ボリビア政府は8月2日、幼稚園から高校までの2020年度の全学期を7月31日で終了すると発表しました(通常は11月30日が終業式)。コロナ禍で失

イエスのカリタス修道女会宣教女
リマの聖女ローザ準管区
シスター テレジア川端キヌエ

業者が増加し、私立学校ではオンライン授業での教育の質を問題にして授業料を滞納するなど、全国で私立学校の閉校の危機が浮上している最中、突然の信じられない出来事でした。

園児や生徒たちの教育を受ける権利を阻止したことになり、全国で混乱が生じています。約2千人の学生を抱える修道会経営のカリタス学園も対応に追われています。保護者の理解と協力が得られず、授業料の未納が続くならば、学校存続の危機に陥ります。

ペルーのスラム街にあるマリア・タキ保育園は、4月に保護者と会議を重ね、月謝を60ドルから15ドル程度まで下げましたが、保護者たちは日雇いの職を失い、新型コロナウイルスに感染し、納入される月謝はごくわずかです。治安の悪い地域なので夜警が必要で、教育委員会や保護者との連絡、教員のオンライン授業遂行などのために事務・管理者を雇用し、すでに赤字経営状態です。生徒の両親、祖父母、教職員自身とその家族が新型コロナウイルスに感染し、犠牲者も出ています。

このような苦しい経済状態の中で、幼児から青少年までの教育とキリスト教的養成を続けていくために、日本の皆様からいただいた寄付金は、苦しむ貧しい家庭の生徒を優先し、学費支援にあてさせていただきます。写真の姉弟はとても責任感があり勉強好きです。弟は絵を描く才能があります。母親は出勤できず、経済的に困窮しているため、この家族には授業料や教材などの支援を行います。

皆様の上に、神様の豊かな祝福をお祈りいたします。



世界そして日本のサレジオン人々を紹介します。



KISMATプロジェクト

KISMAT project for the migrants in Kerala

サレジオ会インド・ケララ管区 計画開発事務局
Kerala, India



部屋から慎重に運び出すKISMATのスタッフと協力者たち

事故で半身不随となった出稼ぎ労働者を 家族のもとへ搬送する3,500kmの旅

インド・ケララ州で移民労働者のために働くサレジオ会の KISMAT プロジェクトは、不運の事故で半身不随となり、家族のもとに帰りたいと願う一人の労働者の夢を実現した。その距離は3,500km（日本列島の全長は約3,000km）。新型コロナウイルスによる都市封鎖で移動が困難な中、KISMAT の働きかけに多くの協力者がこたえ、家族は再会を果たした。

出稼ぎ労働者に突然のロックダウン

インド半島南西部のアラビア海に面するケララ州には、インドの他の地方から多くの出稼ぎ労働者が移住し、そのほとんどは日雇いで働いている。実際に働くことができた日だけ収入があるその日暮らしの貧しい人びとが、インドには何百万人もいます。

“KISMAT”（ヒンディー語で「運命」の意味）は、サ

レジオ会インド・ケララ管区の計画開発事務局（BREADS）が、ケララ州に働きに来ている移住労働者のために奉仕するプロジェクトの名称だ。

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、インドのモディ首相は、全国にロックダウン（都市封鎖）を敷いた。告知からロックダウン実施まで、わずか4時間。すべての交通機関が止まり、労働者たちには仕事なくなり、家に帰ることもできなくなった。



支援者の思いに感極まって涙するクリシュナさん



往復7,000kmの道のりを搬送する救急車

不運の事故で半身不随に

クリシュナ・カクラリさん（42歳）は、インド北東部のヒマラヤ山脈にあるアッサム州の出身。2015年からケララ州のティルヴァナンタブラムで日雇いの仕事をしてきた。家族の中でクリシュナさんは唯一の稼ぎ手。故郷の家には祖母と妻と3人の娘がいる。家族の幸せがなによりの願いというクリシュナさんは、一生懸命に働いて稼いだ収入はすべて家族に送り続け、インド各地から来たほかの8人の労働者と共に部屋を借りて住んでいた。

2020年6月11日、クリシュナさんの生活は一変。自転車に乗って仕事に向かう途中、電柱に衝突し、頭に重傷を負ってしまったのだ。ティルヴァナンタブラム医科大学病院に担ぎ込まれて10日間治療を受けたが、腰から下が麻痺し、二度と自分では移動できないと医師に宣告された。もう家族を養うことができないと知ったクリシュナさんは打ちのめされた。これからは家族の重荷でしかなくなってしまう。しかも家族から3,500kmも遠く離れ、動けないまま横たわっている。同居の仲間たちは一緒に部屋にすることを望まず出て行き、オディシャ州出身のサントシュさんだけが残ってクリシュナさんの世話をした。

KISMATが さまざまな協力者の善意をつなぐ

移住労働者に奉仕するサレジオ会のプロジェクト KISMATを知っていた労働局次長のアプヒラシュさんは、2020年6月22日、クリシュナさんのことを KISMAT に知らせた。すぐに KISMAT のスタッフがクリシュナさんを訪問すると、彼とサントシュさんの二人は食べ物も薬も切らしている状態で、即座に対処した。

クリシュナさんには、ただ一つの願いがあった――で

きるだけ早く家へ帰りたい。KISMATはクリシュナさんの主治医たちに相談し、所見を集め、飛行機での移動を勧める医師から旅行許可の診断書もらった。しかし、新型コロナウイルスによるロックダウンで空の便は不定期、アッサムへの直行便もない。乗り継ぐたびに検疫の隔離期間を過ごすことになる。

KISMATは地区労働局長と会合を重ね、局長は救急車でクリシュナさんを家に搬送し、その費用は政府が負担するよう計らってくれた。ケララからアッサムの往復7,000kmの旅を引き受けてくれる救急車を手配。インド南西にあるケララから、インド北東にあるアッサムまで陸路で旅をする場合、ケララ、タミルナドゥ、アンドラプラデシュ、オディシャ、西ベンガル、そしてアッサムと、バングラデシュを迂回して6つの州を通過するが、それぞれに法規や要件があり、KISMATは必要な許可をすべて取った。同行する3人のアシスタント、旅の食糧、宿、薬を手配し、アッサムから戻った運転手たちの検疫隔離についても手配した。政府が負担する救急車の経費以外については、スポンサーが見つかり協力してくれた。

2020年7月21日、3人の運転手、3人のアシスタント、そして患者から成る一行は出発。6日後の7月26日、クリシュナさんはついに、祖母、妻、3人の子どもたちとの再会を果たした。

クリシュナさんの搬送について紹介する
YouTube 動画（英語字幕 3分40秒）
<https://youtu.be/yKMCKZxK5v4>



News source

ANS 2020年9月10日記事より

「ANS」は世界のサレジオ家族ニュースサイト。毎日世界各地のサレジオ関連ニュースが英語・イタリア語など6か国語で紹介されています。http://www.infoans.org/



大和教会所属・サビオ学院OB 安達聖



テレビ高専OG 遠藤ゆりえ



下开草考久会, DBVG 貝竹花菓子



下井軍教會、DBV G
貝川竹 木火木子

文・写真／SYM JAPAN事務局

今回は、SYM JAPANを運営する青年スタッフ9人が、これまでの歩みを振り返って伝えたいSYMの魅力や思いを綴りました！



碑文谷教会 福井美夏江

日向学院OG 田沢歌穂



下井草教會所屬, 川又サ-ス7-12DG
宮島南帆



クレシオ学院OB 川野 正裕



金子 4号



▶ 都城聖ドミニコ学園高等学校 (宮崎県都城市)

修養会「友愛の集い」開催



都城聖ドミニコ学園高等学校1年生の「友愛の集い」の様子

2020年7月10日、豪雨と新型コロナウイルス禍の中、ようやく高校生活のリズムに慣れ始めてきた頃に、都城聖ドミニコ学園高等学校1年生の修養会「友愛の集い」が行われました。集いは、まず愛真館で校長先生の講話を聞き、ビデオでマザー・テレサと渡辺和子シスターの生き方を学びました。昼食は学校の園庭で、1年生全員による焼肉バーベキュー。午後は体育館でレクリエーションをした後、自分自身や仲間とのふり返しを行いました。ドミニコ生としての在り方を学び、クラスを越えて友愛を深めるよい機会となりました。

▶ サレジオ学院高等学校 (神奈川県横浜市)

オンラインOB座談会を開催

2020年8月1日サレジオ学院高等学校2年生は、将来の進路を考えるために、オンラインでのOB座談会を開催しました。座談会には、大学生・大学院生・社会人の同窓生が協力し、生徒からの質問にもリアルタイムで回答。学ぶことの多いひととなりました。



サレジオ学院高等学校2年生の「オンラインOB座談会」の様子

▶ 日向学院中学校・高等学校 (宮崎県宮崎市)

司牧部のボランティア活動



日向学院中学校・高等学校司牧部によるボランティア活動の様子

日向学院中学校・高等学校の司牧部は、例年であればカリタスの園児院つぼみの寮や老人ホーム松の寮への訪問ボランティアを行いますが、今年度は新型コロナウイルス感染防止に努め、訪問をしなくてもできることや、校内でできるボランティアを創意工夫して実行しました。

【ゴミ拾いボランティア】学校周囲のゴミ拾いを1時間ほど実行。落ちていたゴミの意外な多さに驚きつつ、美化に努めることができました。

【ベンチ塗装】教員数人が廃材を使って作ったベンチに、高3のメンバーが塗装。校内に置かれたベンチは、生徒たちの憩いの場となっています。

【つぼみの寮のネームタグ外し】つぼみの寮で使う子ども服のネームタグを取る作業。限られた人数の職員で行うと大変な作業ですが、たくさんの生徒の手にかかると1時間ほどで終わりました。

【松の寮で使用する古布の切り出し】体を拭いたりするために使う布を、大量の古着から切り出す作業。根気のいる作業ですが、多くのメンバーがきれいに仕上げて、松の寮の皆さんに渡すことができました。

【松の寮に飾ってもらう季節の飾り作り】外出できない老人ホームの利用者の方々に少しでも季節感を感じていただこうと、月ごとにデザインした飾りを制作。7月は七夕をモチーフに、8月は海でのスイカ割りをモチーフに作り、ホームの皆さんに喜んでいただけているようです。

【石けん作り】新型コロナウイルス感染防止のため手洗いをしてもらえるように、きれいな石けんを制作。ゼリーのような“美味しそうな”石けんが出来上がり、校内のトイレに配置しましたが、熱に弱くて無残にも解け落ちてしまいました(笑)。

【雑巾作り】不要なタオルを全校生徒から提供してもらい、学校内やつぼみの寮、松の寮で使用する雑巾を制作。始めはミシンの使い方もおぼつかない感じでしたが、作るにしたがって要領も良くなり、立派に仕上がりました。



サレジオ家族学校中高生の集いの参加者たち

▶ サレジオ家族学校中高生の集い
～教皇来日スペシャル～

「どんな若者になっていきたいか、そのために何をしていけばよいか」

2019年11月24日、教皇フランシスコの来日に伴い、サレジオ家族学校中高生の集いが行われました。会場となったサレジオ・シスターズ赤羽修道院(東京都北区)に、星美学園、目黒星美学園、サレジオ学院、日向学院から学生58人が集まりました。

まず各学校の生徒代表による学校紹介があり、続いてSYM(Salesian Youth Movement サレジオ青年運動)のスタッフ青年による楽しいレクリエーションが行われました。アイス・ブレーキングで十分に打ち解けたところで、今回のメイン・コンテンツである「教皇フランシスコの言葉からの分かち合い」が始まりました。

教皇にまつわるクイズで教皇について楽しく学んだあと、教皇文書『キリストは生きている』からの抜粋を皆で読み、グループに分かれて「どんな若者になっていきたいか、そのために何をしていけばよいか」というテーマで分かち合いが行われました。最初は少し緊張もありましたが、少しずつ分かち合いは活発になり、生徒たちは互いの思いや考えを語り合い、耳を傾けました。各グループの発表からも、生徒たちが教皇のメッセージを真剣に受け止め、自分なりにできることを考え、充実した分かち合いができたことがわかりました。

その後、聖堂に移動して「みことばの祭儀」が行われ、共に祈る時間を持ちました。そして、お楽しみの夕食は、シスター方が用意してくださったおいしいカレーを皆でいただき、最後にサレジオ会日本管区長の濱口秀昭神父によるボナノッテ(短い講話)を聞きました。解散する頃には互いの緊張もすっかりほぐれて自由な交流が始まったようすで、これからの明るい展望が感じられました。

この集いは、各学校の生徒同士の交流を深め、青年対象のSYMにつなげていき、将来のサレジオ家族を担う人材育成の第一歩となることが期待されており、今年も秋にオンラインでの開催が検討されています。



サレジオ家族学校中高生の集いの様子



1



2



3



4



5



6



7



8



9

1. 山中雪の聖母修道院のメンバー。2019年、視察に訪れたシスター・フィリス・ネヴェスを囲んで
2. 宿題に取り組む子どもたち
3. 広い敷地で思いっきり駆け回れます
4. 明るいチャペルで静かに祈るひととき
5. 横浜教区の梅村司教様と一緒に
6. お茶の作法も学びます
7. クリスマス会ではセリフと歌を覚えた聖劇を聖堂で披露。このあとは大人も一緒に楽しいパーティー!
8. 黙想・研修施設で充実した学びのひととき
9. 冬はたくさん雪が積もります

V i s i t t h e S a l e s i a n F a m i l y

● 山中雪の聖母修道院

サレジオン・シスターズ
山梨県南都留郡山中湖村

○戦時中の疎開先で 迎え入れられて

サレジオン・シスターズが1929年に日本で福音宣教を始めてから90年が経ちます。日本に派遣されたシスターたちは、ドン・ボスコによって派遣された南米宣教グループに引けを取らない困難と苦勞を乗り越えてきました。戦時中、東京の三河島、静岡の清水・藤枝など疎開に次ぐ疎開を続けた先でたどり着いたのが、ここ山中湖村です。村の人びとは、住む家を失った子どもたちとシスターを温かく迎え入れ、家族のこのように家屋を提供し、安住の地を見つけるため物心両面で惜しみなく援助してくださいました。

戦後は大勢の戦災孤児を抱え、食糧難に直面しましたが、アメリカの進駐軍と山

中湖村の人びとの善意に救われました。次第に村の子どもたちが集まる場となり、教育にたずさわるようになりました。星美学園、星美ホーム、日曜学校はここで再生したのです。60年近く続いた社会福祉法人星美ホームは、社会状況の変化に伴って東京(北区赤羽台)に統合されましたが、山中湖村の子どもたちを中心に、2代、3代と家族的なつながりは今も続き、75年目を迎えます。

○村との協働で 放課後児童クラブを運営

2005年、山中湖村役場からの要請を受け、地域のご家庭の要望と大切な子どもたちの教育のため、放課後児童クラブ「くじらっこクラブ」が誕生しました。くじらの形をした山中湖にちなんで名付けられたこの

活動は、昼間保護者がいない家庭等の子どもたちが安全で豊かな放課後を過ごせるように、村役場と協働で運営している放課後児童健全育成事業です。毎日「ただいま」と元気に走って帰ってくる子どもたちにとって、ここはもう一つの家。シスターにとって、ここはもう一つの家。シスターにとっては、青少年の救いのため、青少年と生涯共に生きることのできる幸せな空間です。

山中湖村には2つの小学校があり、当初に比べると児童数は少なくなりましたが、年間の登録児童数は60人を超えています。毎週月曜日から金曜日は、午後3時ごろの下校時間帯に学校と連携して迎えに行き、午後6時ごろに家族が迎えにくるまで預かります。その間、宿題、おやつ、屋外遊び等を基本とした時間割を組んで、村役場からの派遣職員と2人のシスターが主に対応します。学校が休みの土曜日や、

夏季と冬季の休暇中は、終日の預かり保育を実施しています。

このほか、家族ぐるみの遠足、教会の子どもたちと家族も参加する聖母祭、クリスマス、ドン・ボスコの祝日などさまざまな行事があります。参加される地域の皆さんやご家族の多くは、子どものころ同じ体験をされた方々です。子どもがつながり同窓生家族には、地域社会に深く根を下ろしたサレジオン家族の温かさがあふれています。

○黙想・研修施設「霊性センター」

標高約1000メートルの自然の中にある山中雪の聖母修道院には、福音宣教の場を提供する「霊性センター」があります。サレジオン家族をはじめ諸修道会や教会信徒の方々による黙想会・聖書研究会などが行われています。霊性センターからは富士

山の雄大な姿を間近に見ることができ、敷地を出て国道を渡ると山中湖畔という恵まれた自然環境にあります。ここを訪れる皆さんが静かな時の中で祈り、神様と向き合うことができるよう、心を込めて食事の準備や施設環境の整備をして奉仕しています。

(文・写真/サレジオン・シスターズ山中雪の聖母修道院提供)

富士の聖母像 Our Lady of Mt. Fuji

富士山麓の深い樹海の中に、1964年、世界平和を願って扶助者聖マリア像が建てられました(現在の聖母像は1987年建替)。イタリア・カララ産の大理石で造られた純白の像は、高さ3m、重さ2.5t。背後の壁には世界各地から贈られた石が埋められています。2013年に富士山が世界文化遺産に登録されたこともあり、国内外から巡礼者が訪れています。
【建立地】富士山2合5勺(山梨県南都留郡鳴沢村)富士スバルライン樹海台駐車場前の車道を渡り、正面の坂(山道)を徒歩8分ほど登ったところにあります。富士スバルラインの営業時間・マイカー規制等をご確認のうえお越しください。



サレジオン・シスターズ
山中雪の聖母修道院
山梨県南都留郡山中湖村山中233



青少年

カトリック調布教会日曜学校
オンライン動画配信で活動継続

カトリック調布教会（東京都調布市）の日曜学校は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により教会での開催は中止しているが、日曜学校の参加者となつたり続け、共に学ぶことができるように、日曜学校リーダーが中心となって短い動画を作成。2020年4月からオンライン日曜学校を開催し、サレジオ会日本管区のYouTubeチャンネルで動画配信を続けている。日曜学校に参加する小学生と家族をはじめ、Facebook「ドン・ボスコの風」でも広く公開され、多数の人に視聴されている。

調布教会日曜学校には、普段20～30人の小学生が参加。リーダーは教会の青年と保護者、調布サレジオ神学院の神学



調布教会オンライン日曜学校YouTubeより

生・志願者・修道士、サレジオン・シスターズのシスターが務めている。サレジオ会総本部から、インターネットを利用して若者と関わってほしいとの提案もあり、動画制作に取り組み始めた。

動画は毎回、紙芝居や寸劇、落語など工夫が凝らされており、参加している子どもや保護者からは、「動画を見て笑っている」「最後のクイズが楽しみ」「祈りの呼びかけにこたえて、子どもと一緒に祈っていた」などの反響が寄せられている。

調布教会

オンライン日曜学校動画

YouTubeで公開中！

サレジオ会日本管区

YouTubeチャンネル

<https://www.youtube.com/user/SalesiansJapan>

教育・福祉

サレジオ家族教職員養成講座
オンラインで開講中

サレジオ家族の学校・事業所に務める教職員を対象に2016年度からスタートした「サレジオ家族教職員養成講座」は、昨年度までサレジオ会の研修施設サイトック（東京都杉並区）で開催されてきたが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりオンラインで開催している。これまでも若手からベテランまでの教職員が対面式で、普段所属する職場の垣根を越えて、ドン・ボスコの人間性、青少年とのかかわり方、アシステンツァ（共にいること）などのエピソードを学び、日頃の実践や課題について活発に意見交換を行う場となっていたが、オンラインで2020年5月に開催された第1回講座には日本全国のサレジオ家族の事業所から130人近くの教職員が参加。オンラインでの開催によって、地理的な距離を越えて、より多くの人が学ぶ場となっている。

基本的にサレジオ家族の事業所の教職



オンラインでのサレジオ家族教職員養成講座の様子

員を対象としているが、一般の方も動画（講座コーディネーターによる短い導入とサレジオ会の浦田慎二郎神父による講話）や資料を見ながら一緒に学ぶことができる。

サレジオ家族教職員

養成講座ウェブサイト

<https://sites.google.com/view/sf-edustaff-seminar/>

同窓生

サレジオ同窓会連合
オンライン国際会議を開催

サレジオ同窓会連合はアジア・オセアニア地域各国の連合代表者とのオンライン会議「チーム・ビジット」を順次開催している。日本連合の代表者とのオンライン会議は2020年8月18日、フィリピン、ベトナム、チェコと日本をつないで開催。同窓会世界連合顧問ナム修道士、EAO東アジア・オセアニア地域顧問フォク神父、前EAO地域顧問クレメンテ神父をはじめ、同窓会青年部（GEX）アジア評議員エヴァンジェリスタ氏と補佐、日本連合顧問の鈴木正夫神父と三島心神父、日本連合事務局2人の9人が参加した。



サレジオ同窓会連合のオンライン国際会議の様子

会議は参加者の自己紹介に続いて、日本連合から日本の同窓生や在校生の状況や、日本連合が2015年に発足してから現在までの歩み、若手同窓生を中心とするワーキングチームによって進められている各種プロジェクト、今後の課題等について、スライドを使いながら紹介。参加者との活発な質疑応答もあり、多様な文化・宗教観をもつアジア諸国ならではの環境で、サレジオ同窓生として活動することの意義や課題が共有され、兄弟的な交わりの中です有意義な90分となった。

また、2020年12月に東京で開催を予定していたアジア・オセアニア地域大会は、新型コロナウイルス感染拡大を受けて年内の開催は中止に。サレジオ同窓会創立150周年のジュビリーイヤー（記念の年）にあたる2021年6月までを目標に、参加者の環境や安全面に配慮しつつオンラインで大会を開催する可能性について、引き続き検討していくこととなった。

修道士・信徒の会

サレジオン・シスターズ
歴史展示室・資料館を開設

2019年4月24日、サレジオン・シスターズ日本管区本部（東京都調布市）に歴史展示室・資料室がオープンした。昨年は本会にとって最初の宣教女来日から90周年という記念の年にあたり、3年間をかけてこの年を迎える準備をする中、かねてより期待されていた歴史展示室・資料室が開設された。「すべては聖母がなさった」——これは展示室を準備した歴史委員会メンバー皆の一致した認識であった。

サレジオン・シスターズの召命に生きる会員たちの心にいつもある「源泉に戻りたい」との憧れから、歴史スポットの中心にはイタリア・モルネーゼを流れるロヴェルノ川の写真を設置した。この川は修道会の誕生時にマリア・マザレロやシスターたちが洗濯をし、その合間には



サレジオン・シスターズ管区本部に開設した歴史展示室・資料館の様子



モルネーゼを流れるロヴェルノ川の写真



マザレロが聖母の声を聞いた小道の写真

料理をしたり歌ったりして過ごした場所。誕生して間もない修道会のシスターたちが、貧しく犠牲が多くあったにもかかわらず、その生活を喜び楽しみ、まさに「兄弟のように共に住むのは美しく楽しいこと」を生きた場所である。

歴史スポットにはさらに、マリア・マザレロにとって青少年教育の源泉となった「あなたにこの少女たちを委ねます」との声を聞いた場所へと導く小道の写真を掲示し、マリア・マザレロが祈りを捧げて熱意を培っていた「ヴァルボナスカの窓」も再現。会員たちが懐かしい場所に精神的に戻れることをねらいとしている。

展示室に入ると、右手にはトリノの扶助者聖マリア大聖堂が北アルプスとトリ



再現されたヴァルボナスカの窓



サレジオン・シスターズの歴代総長



世界各地へ派遣された宣教女たち



最初に来日した6人の宣教女の歩み

ノの街を背景にしてそびえている。ドン・ボスコはこの地でサレジオン・シスターズの創設を決意した。さらに進むと、本会創立を導いた3人の人物の摂理的な出会い、歴代総長に託した本会の流れと総会議事録の展示、扶助者聖マリア大聖堂

のワーポラを背景に6人の宣教女たちの日本文化への受肉の歩みとそれを導き励ましたチマッティ神父と、6人の中でリーダーであったシスター・ベリアッティの面影へと続く。

展示室の左手には、富士山と富士の聖母像を背景にした日本管区の流れが年表によってまとめられている。「すべては聖母がなさった」——これはドン・ボスコを先頭にサレジオ家族のメンバーが実感している確信であろう。

管区本部の2階には、ささやかな資料室も準備。来日した宣教女たちが大事に読んでいた修道会のニュース記事や、サレジオ会歴代総長の簡単な資料などが展示されている。

【見学の連絡先】

展示室の見学を希望する場合は、事前の下記までご連絡いただき、来館日時、人数、代表者名、当日連絡が取れる連絡先をお知らせください。

サレジアン・シスターズ歴史展示室

電話 042-444-8541

FAX 042-444-8542

メール secrjapan@zc.wakwak.com

イエスのカリタス修道女会 総本部の公式Facebookページ開設



イエスのカリタス修道女会総本部のFacebookページ

イエスのカリタス修道女会総本部（ローマ）は、カトリック教会の「世界広報の日」にあたる2020年5月17日から公式Facebookページを開設した。1937年に日本の宮崎で創立され、現在では日本、

韓国、ボリビア、ブラジル、ペルー、ドイツ、イタリア、パプアニューギニア、オーストラリア、アメリカ、フィリピン、中国、アルゼンチン、ベトナム、南スーダン、ウガンダの16か国でイエスの愛を人びとと分かち合うシスターたちの様子が日々、写真や動画とともに各国語で紹介されている。Facebookの記事を通して、世界各地の貧しい人びとと、共に生きるシスターたちを思い起こし、祈るひと時となることを願っている。

イエスのカリタス修道女会総本部公式 Facebookページ

<https://www.facebook.com/caritassisters>

ユーザー名

Suore della Carita' di Gesu'



サレジオ会

調布ドン・ボスコ オラトリオによる 外国籍の若者等への支援活動



ドン・ボスコ オラトリオに届けられた支援物資の一部。
左は田村宣行神父

新型コロナウイルス感染拡大の影響で多くの人びとが仕事を失い、学費や家賃の支払いが困難になり、食費を削るため食事を1日1回だけにするなど、困窮した状況にある人たちも少なくない。

こうした状況を受けて、2020年5月、サレジオ神学院（東京都調布市）院長の田村宣行神父と春山ミカエルラップ神父が食料物資の提供を呼びかけ、寄贈された食品を主に外国籍の若者たちのために届ける活動を開始（7月から「ドン・ボスコ オラトリオ」として活動、詳細は本

誌p.10～11参照）。さっそくサレジオ家族をはじめ数多くの賛同者からドン・ボスコ オラトリオ宛てに、米やパスタ、インスタント麺、缶詰、レトルト食品、小麦粉、日用品など多数の支援物資が届けられた。

届けられた物資は、これまでカトリック川口教会のMai Khoi Kawaguchi、カトリック東京国際センター（CTIC）、フードバンク調布、在東京ブラジル総領事館、カトリック浜松教会のドン・ボスコ学習支援などの支援団体に運ばれ、必要とする方のもとに届けられている。

浜松教会のドン・ボスコ学習支援は、言葉の面で学校の授業についていけない外国籍の子どもたちのため、ボランティアスタッフが週3日、国語と算数の学習支援をしており、現在はペルー人やブラジル人など18人の子どもたちが学習している。田村神父が東京から支援物資を車で届けに行った際、受け取った子どもたちと家族からは、「遠いところから、私たちのためにありがとうございます」「お米が無くなってしまったところだったので本当に嬉しいです」「私たちのことを思ってください、感謝しています」など、支援者の皆様への感謝の涙と、喜びの笑顔が伝えられた。



【支援金ご寄付のお願い】

下記口座まで支援金のご寄付をお願いします。
口座名「ドン・ボスコ オラトリオ」
ゆうちょ銀行 記号11370 番号14004031
（他行から振込む場合：
店名一三八 店番138 普通預金 1400403）

〒182-0033 東京都調布市富士見町3-21-12
サレジオ神学院 ドン・ボスコ オラトリオ
電話 042-482-3117
メール vinhnuhuynh@gmail.com
担当：田村宣行神父、春山ミカエルラップ神父

2020年10月1日発行

編集人 関谷 義樹

発行人 濱口 秀昭

発行所 サレジオ会日本管区本部

「ドン・ボスコの風」編集事務局

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12

電話：03-3353-8355 Fax：03-3353-7190

Eメール：dbw@salesians.jp

編集・デザイン制作 ドン・ボスコ社

印刷所 日之出印刷株式会社

本誌掲載の記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。

© サレジオ会日本管区本部 2020

「ドン・ボスコの風」について

「ドン・ボスコの風」はサレジオ会創立者ドン・ボスコが1877年に創刊した「Bollettino Salesiano」の日本版。サレジオに関わる人びとの生き方や活動を紹介し、サレジオ家族の絆を深めるサレジオ会広報誌です。

本誌をご希望の方へ ご寄付のお願い

本誌をご希望の方は、上記奥付の「ドン・ボスコの風」編集事務局までお申込みください。本誌は無料配布ですが、趣旨にご賛同くださる皆様のご支援をお願いします。下記の振込口座まで（または本誌綴じ込みの払込用紙にて）ご寄付いただいた方には次号より1部贈呈いたします。

郵便振替口座番号 00100-7-412947

加入者名 「ドン・ボスコの風」編集事務局



「ドン・ボスコの風」バックナンバーは、サレジオ会ホームページ www.saleso.jp（トップページの「ライブラリー」→「ドン・ボスコの風」）でご覧いただけます。

2020年4月は新型コロナウイルスの影響により休刊いたしました。

編集後記

コロナ禍中での発行となりました。皆さん、いかがお過ごしですか？ ご家庭、学校、職場、施設、地域など、さまざまな場でいろいろ対応に苦心されていることと思います。今後の収束を願い、祈ります。「共にいること」が打撃を受けている世界です。人間の本質が問われています。その中であって、小誌はイエスが示し、ドン・ボスコが証した共にいることの喜びを発信し続けていきたいと思います。（S）

サレジオ情報の投稿を お待ちしております！



本誌へのご意見やご感想、またサレジオ家族の学校・施設・活動グループ・教会・修道院での出来事の写真とコメントを、氏名・住所・電話番号・職業・年齢・ご希望のプレゼント（下記A～E）を明記し、お送りください。

ご記入いただいた個人情報（賞品発送以外の目的で使用いたしません。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。）

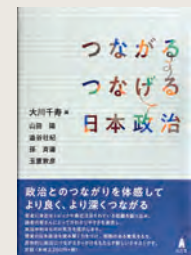
応募締切 **2021年1月31日**

【Eメール】 dbw@salesians.jp

【F A X】 **03-3353-7190**（「ドン・ボスコの風」編集事務局宛）

【ハガキ】 **〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12**

サレジオ会日本管区本部 「ドン・ボスコの風」編集事務局



A 『つながる つなげる 日本政治』

現実政治とのかかわり方や職業ガイドなど具体的に政治につながるきっかけを届けながら、多面的に日本政治を理解できる本。若者に身近なトピックや注目の話題を盛り込みながら、わかりやすく政治学的なものの見方を紹介。本誌p.9の大川千寿さんの編著書。

編著 大川千寿

共著 山田陽・澁谷社紀・孫齊庸・玉置敦彦

A5判並製 272頁 弘文堂

B 『フラガ神父の料理帳』

スペイン家庭の味

来日68年のフラガ神父（サレジオ会）が、故郷スペイン・ガリシア地方の家庭料理を紹介。愉快的語り口のにせて繰り出される料理40点は簡単かつ豪快！古い友人で彫刻家の池田宗弘氏による版画・挿絵も味わい深い。復活祭やクリスマスなどの特別料理も収載。プレゼントにもおすすめ。

著者 セサル・フラガ 作画 池田宗弘

B5変形判（230×190mm）並製 100頁 ドン・ボスコ社

つくっちゃいました♡

LINEスタンプ「ドン・ボスコくん！」

ユーザー続々増加中！

ダンディなお茶目でお茶目なドン・ボスコくん。たまに登場する愛犬グリージョ。日常会話にほっこり笑顔を咲かせチャオ！

スタンプショップへGO! 「ボスコ」で検索! <https://line.me/S/sticker/4593837>

ドン・ボスコ社
オンラインショップ

www.donboscosha.com

フェイスブック



インスタグラム



イエスの香りをお届けします。
#ドンボスコ社

今、私「〇〇」しています！

社会福祉法人 児童養護施設 聖ヨゼフ寮 施設長

衛藤 祐治 さん

Mr. Yuji Eto

児童養護施設聖ヨゼフ寮で
「エトウパパ」を
しています！



聖ヨゼフ寮の職員と。前列左が衛藤園長。
職員どうしでほめ合い、ねぎらい合う取り組みを実践中。

「エトウパパ」という仕事

「エトウパパ」をしています、というタイトルは少し変わっていますが、私の仕事を紹介する時、この表現が一番合っていると思います。

聖ヨゼフ寮（大分県中津市）で働くようになり43年が経ちました。7年前からは施設長という立場での仕事をしています。聖ヨゼフ寮で多くの子どもたちから「エトウパパ」と呼ばれています。年齢的には「エトウジジ」なのですが、パパとはありがたいことです。子どもたちから親しみをもった呼び名で声をかけられ嬉しくもあり、誇らしくもあります。



「園長感謝の日」に

児童養護施設で暮らす子どもたち

ここで少し児童養護施設について説明します。児童養護施設の多くは戦争によって孤児となられた方々の救済が目的で設立されました。現在は保護者のいない子どもや虐待を受けた子どもの養育と自立支援を目的とした入所施設で、おおむね2歳から20歳までの児童が対象となっています。全国に約600か所の施設があり、約3万人の子どもたちがそこで生活しています。

我が国の子ども人口は年々減ってきていますが、それに反して、施設や里親を必要とする子どもたちの数は横ばいで大きく減少していません。全国の児童相談所に寄せられる虐待相談件数は年々増加し、2018年には15万9850件にもなっています。

「あなたの宝のあるところには、あなたの心もある」

（マタイによる福音書6章21節）

子どもたちのため生涯をささげたドン・ボスコの宝は、言うまでもなく子どもたち。心はいつも子どもたちのところに

ありました。子どもたちの横に寄り添い、子どもたち一人ひとりの幸福のため働く実践者でした。行動する人でした。サレジオ会は、ドン・ボスコの後継者で常に子どもたち一人ひとりを宝と思い、心はいつも子どもたちのところにあり、良きことの実践を続けてこられました。サレジオ会の協働者である私も同じ思いで同じ目的に向かい、日々実践行動するという努力をしています。出会う子どもたち一人ひとりが「自分は大きな存在として接してもらえた」と実感できるよう、ドン・ボスコにならっています。

出会で生き方が変わる

サレジオ会との出会いは、今は亡き溝部脩司教との出会いによって始まりました。洗礼は受けていたものの、サレジオ事業については全く無知な私でしたが、大分県中津市にあるドン・ボスコ学園中学校（現聖ヨゼフ寮）で働くようになり、サレジオ会の方々や多くの子どもたちとの出会いに恵まれました。

子どもたちからの学びは大きく、自分のもつ価値観が段々と変わってきたように思います。サレジオ会の風に触れ、その雰囲気の中に生きて影響を与えられたのだと思います。昔、川部金四郎先生から「人の幸福はだれと出会うかによって左右されますね」と教えられました。今もその言葉が心に残っています。出会うことにより影響を受け生き方が変わる、そのことを実感しています。

今後も出会いを大切にしながら、和やかな雰囲気に包まれた聖ヨゼフ寮をみんなで創っていきたいと考えています。



衛藤 祐治 えとう ゆうじ
Yuji Eto

1954年大分県生まれ。1977年よりドン・ボスコ学園（学校）、聖ヨゼフ寮（児童養護施設）に勤務。2014年聖ヨゼフ寮施設長に就任。趣味は野菜作り。

新司祭 紹介

2019年12月14日、サレジオ会日本管区にベトナム出身の新司祭が誕生した。志願者として来日し、サレジオ会員としての道を歩むことを選んだフー神父のこれまで道のりとは。



若者と共にいるフー神父（後列中央、在日ベトナム人の青年と大阪にて）

「神のわざは不思議！」

レー・ファム・ギェ・フー 神父 Fr. Lê Phạm Nghĩa Phú



子どもが大好き！

1999年9月8日。私の地元サイゴンのサレジオ会の教会では、聖マリアの誕生のお祝いで、聖体讃美式が行われることになっていました。たまたま聖堂横の香部屋（祭具室）にいた私に向かって、主任司祭が急に声をかけました。

「私について来る？」

深く考えず、私はすぐに「はい」と答えました。

今ふりかえて考えてみると、そのころ中学生であった私は、それほど教会に行くのが好きではなく、祈りやミサや教会の活動などに真面目に参加していませんでした。両親も仕事に忙しく、信仰面ではさほど熱心ではありませんでした。ただ私は教会に遊び場があるからよく行っていただけでした。

なぜ、あのとき主任司祭は私にあの不思議な呼びかけをしたのか、そして、なぜ私は無意識のうちにすぐに「はい」と返事したのか。それは、その後の私の召命の歩みにおいて起こったさまざまな不思議な出来事の始まりとなりました。

高校時代、週末に限ってサレジオ会の養成支部に通い、志願者として召命の道を歩み始めました。高校卒業後、ベトナムでサレジオ会に入る誘いもありましたが、踏み切れなくて一般の勉強を続けました。正直にいうと、そのときはまだ修道者になる気持ちをもてなかったのです。ただ、とりえずサレジオ会での生活が心地よかったので続けていました。

その後、日本でサレジオ会員としての道を歩んでみないかという誘いがありました。そして、その準備としてベトナムの少数民族の地域にあるサレジオ会の支部で生活を送りました。少数民族の人びと、特に子どもたちと関わって活動する

ことに、私は心から喜びを感じ、自分らしい自分を見つけたように思いました。そのためそこに長く留まりたい気持ちもありましたが、2年間ほど少数民族の所で活動してから日本に行くことにしました。

日本に行く直前、一緒に行くはずだった志願者の一人が、抽選で兵役に引っ掛かって行けなくなりました。ベトナムに留まりたく、まだ本心から日本に行くことに踏み切れなかった私が、逆に兵役を免れて日本に行くことになりました。どうなるかわからないけど取りあえずやってみようという気持ちでスタートしましたが、現実には言葉の違いや文化の違いなどの壁で日々苦勞しました。限界を感じて私は日本から逃げようと思うときがしばしばありましたが、自分の無力さを感じたとき、「自分の力に頼るのではないよ」という神の語りかけを聞いて、自分は大きな力と慰めをいただきました。そのお陰でこれまでの召命の道を歩み続けることができました。

これまでの私の召命は自分が「こう」して「ああ」したから今ようになったわけではありません。すべては神の恵みによって起こった出来事であると思います。私の召命の歩みは不思議なものです。神のわざは不思議です。自分が思いも寄らなかったものでしたが、私のための神の計画です。これから神の計画はどのように私のために用意されているのかわかりませんが、まず、私に任された場で自分の生き方と喜びをもって人びと、特に若者に神の業を示していきたいのです。



1984年サイゴンにて出生。7人家族で5人兄弟の3番目。2005年来日。2008年初誓願。2016年終生誓願。2019年12月司祭叙階。趣味はクッキングとバルーンアート。現在は東京都町田市のサレジオ工業高等専門学校にて勤務。



みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように

マタイによる福音書6章10節

Thy will be done on earth as it is in heaven (Mt 6:10)

私たちサレジオ家族は、子どもたちのために涙を流す母です。多くの子どもや若者にとって、この世の扉は閉ざされ、前途は見えず、頑張る力を与えてくれるよりどころありません。

「私たちはこれからずっと友達だ、そうだね？」ドン・ボスコが若者に最初に語りかけた言葉、子どものために開け放たれた心の扉です。出かけて行き、人びとと出会いなさい——これが呼びかけです。

若者の前にある無情な壁に穴を開け、若者の言葉に耳を傾けよう。愛をこめて相手^{ほうよう}を抱擁し、その人の善を求めよう。愛情や時間、信仰、疑問を分かち合いながら、愛をもって共に生きるのです。

神が造られた世界を取り戻し、これから造られる世界を誠実に見つめる目をもたなければなりません。貧困、飢え、不平等、人びとと大地の無情な搾取^{さくしゅ}は「もうたくさんだ」と言う勇気とともに。

私たちはドン・ボスコと共に「主の祈り」で、天の父のみ国が地上に来るようにと日々願い求めます。若者のため、若者と共に、キリストの愛^{なら}に倣う神の国を築こうとしています。

ドン・ボスコは、若者が幸せであるようにと願いました。今も、そして永遠に。それは、いのちを喜び祝うことなのです。



2020年7月 イタリア・リファージョ マリネッリにて

サレジオ会総長

アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父

ストレンナ2020ビデオメッセージより要約